

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム ひなたぼっこ(高津)

## 目標達成計画

作成日: 平成 23年 12月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	重度の方がおられ、無断外出を防ぐために、玄関ドアが電動で、内側からは開けにくい状態にしており入居者の方に「自由に出られない」という思いを強いてしまっている。	常に鍵が掛かっている状態から、オープンにしている時間もあることを理解していただき、少しでも閉塞感のない生活を支援する。	・外出支援を積極的に行う。 ・昼間、スタッフの多い時間帯には、玄関ドアの電動を解除し、利用者の閉塞感を解消する。 スタッフの意識を変えていく。	3ヶ月
2	21	認知症の進行度の違いから、入居者間で見下した言動などのトラブルがおこることがある。そうした時に、適切に介入できなかったり、認知症が軽い方に厳しい見方をしてしまうことがある。	・弱者一方だけに偏らず、入居者の方々双方の思いや葛藤の理解に努める。 ・自然に場面や感情を転換できるような介入の仕方を学んでいく。	・研修や自己学習で職員の段階に合わせて認知症の学習や、広く社会行動心理など人間理解の学習を積み重ねていく。 ・スタッフそれぞれが自分の思考の傾向や欠点を知り、対人援助職であるという自覚をもって、日々の仕事に向き合う。 ・職員会議や日々の話し合いにより、日常の様々な場面で気づきや関わりを高め、実践する。	6ヶ月
3	23	自分の意思を表明できない方、自ら移動できない車椅子の方などに対する関わりで、食事介助や排泄介助、保清など直接的な介護はできているが、雰囲気や共有するなどの情緒面への働きかけが不十分である。	表明が困難な方への働きかけを意識して増やし、思いを引き出す。	・座りっぱなしの状態でおかず、ちょっとした時間にもホーム内の日当たりの良い場所に移動したり散歩で外の空気に触れていただくなど、意識して実践する。	3ヶ月
4					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。